MAY 2013
Vol.120

この1冊でクルマの世界のすべてがわかる!

オートカー・ジャパン5月号 第11巻第5号 通巻12
2013年5月1日発行(毎月1日発行) 3月26日
PRICE 980yen

AUTOCAR JAPAN

05

CLASSIC & SPORTS CAR

F1 RACING

後輪駆動スポーツモデル比較試乗
ポルシェ・ケイマン × ロータス・エキシージS × BMW M3

アウディ・ハイブリッド3車3様
A6&A8&Q5 ハイブリッド

オートカー・ジャパン
創刊10周年記念企画
日本車メーカー大研究

FIRST DRIV
BMW i3 & i
メルセデス・ベンツCL
新型メルセデスEクラ
ポルシェ・カイエン・ターボ

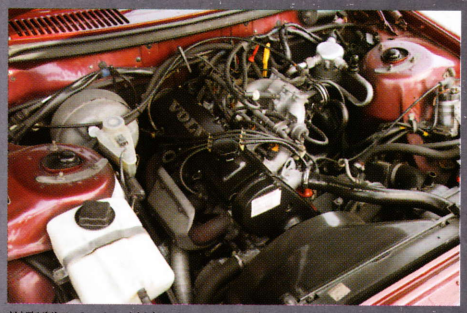
ポルシェ911 50年の軌跡

File No. **030** ▶ **73万円**

このクルマのポイント
- **D車最終、リミテッドモデル。**
- **新車と遜色ない奇跡のコンディション。**
- **記録簿、スペアキー等完備の素性の良さ。**

エクステリアと同じく角張った造型でまとめられたダッシュまわり。スポーティな革巻きステアリングもVOLVOのロゴが入った純正品。

本革張りのシートはしっかりとしたフレームと柔らかな表面が絶妙の座り心地を作り出す。現代のそれよりもコストが掛ったシートだ。



樹脂製のカバーが付かないため煩雑に見えるが、エンジンはシンプルで頑強な2.3ℓ、直列4気筒SOHCが搭載されている。

VOLVO 240GL LIMITED

●ボルボ240GLリミテッド(1992)

お洒落な240。しかも最終・極上。

text: Takuo Yoshida(吉田拓生)　photo: Hidenori Hanamura(花村英典)

その命脈を辿れば'60年代の140シリーズにまで遡ることができるボルボ240は、そのクラシカルな雰囲気と、質実剛健なボルボらしさとが相まって、我が国でも大いに愛されたモデルとして知られている。240シリーズは今からちょうど10年前に生産が終了しているので、最も新しい個体でも10年落ちということになるが、セダンとエステートともにお洒落や流行に敏感な人たちから今なお愛され続けている。人気があり実用性も高いので、中古車市場に出回る個体はけっこう走行距離が進んだものも珍しくない。極上の240を見つけ出すのは年々難しくなっているのである。

事前に5.6万キロという走行距離を耳にしていたので、かなりコンディションがいいんだろうなと思っていたのだが、まさかこれほどまでの極上車だとは思いもよらなかった。ピカピカに磨き上げられ、キズひとつないペイントは新車時からのオリジナルであり、本革製のゆったりとしたドライバーズ・シートもテカリ、ヘタリなどなく、運転席の端っこもほとんど擦れた跡がない。ブレーキとアクセル・ペダルは、ゴム製のカバーに全く使用感がなかったので、これはおそらく最近新品に交換されたのだろう。とにかく「5.6万kmなんて嘘でしょ!」と叫びたくなるような個体なのである。

ボルボ240のような実用的なクルマの極上モノは、注意深く観察していくと、実はけっこうヤレていた個体をアレコレ修理した痕跡が発見されることも少なくない。ところがワインレッド・メタリックが眩しいこの240GLリミテッドに関してはそんな雰囲気が微塵もない。ずっと車庫保管で、走る時以外は太陽の光を浴びてなかったんだろうな、という事が良くわかるコンディションなのである。

ボルボといえばセダンよりエステートに人気が集まることはよく知られているが、タマ数が少なく、使い込まれた個体が多い240を手に入れようと思ったら、そんな贅沢は言っていられまい。気長に走行距離の少ないクルマを探すしかないのが現状なのである。そんな状況を鑑みても、今回の240GLは掘り出し物だ。個人的には、価格もリーズナブルだと思うので、本誌が発売される頃には売れてしまっているんじゃなかろうか? ま、こちらがそんな心配をしたってはじまらないのだが……。Ⓐ

VOLVO 240GL LIMITED	
モデル	ボルボ240GLリミテッド
年式	1992
走行距離	5.6万km
車検	なし
外装色	ワインレッド
内装色	ブラック
備考	低走行、革シート

Shop Informations
Auto Rimessa
●アウトリメッサ
住所: 埼玉県三郷市上彦名51-1
TEL: 048-950-1616
http://auto-rimessa.com/
営業時間: 10:00~18:00
定休日: 月曜日

すっきりとしたスタイリングが特徴の240GL。リアシートの大きめのヘッドレストがセーフティ・コンシャスなボルボを連想させる。